

肺血栓塞栓症予防啓発セミナーの開催協力のご案内

医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”は、全国の病院と医療従事者、病院団体、学会他各種医療団体が、厚労省医療安全対策検討会議の提言に基づく8つの行動目標の実現をめざし、職種や立場を超えて力を結集することで、医療の質・安全の向上をめざす取り組みが広く全国に普及し、目に見える成果を達成し、医療に対する患者・市民の信頼を高めることを目的としています。これまでに80の主要団体・学会にご賛同とご参加をいただき、各地で地域フォーラムが開催されるなど、共同行動がめざす8つの目標と対策の趣旨が次第に広がってまいりましたが、医療に伴う有害事象を低減させるためにはなお一層の努力が必要と考えます。

「行動目標2：周術期肺塞栓症の予防」は、2004年に策定された「肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン」に基づく標準予防対策の普及徹底を勧めています。「肺血栓塞栓症予防管理料」の設定を契機として予防マニュアルの作成やクリニカルパスへの組み入れを行う病院が次第に増え、日本でも肺塞栓予防の取り組みが普及して参りました。

その結果、日本麻酔科学会のアンケート調査では周術期の肺血栓塞栓症の発生頻度が2004年前後から有意に低下しています。しかしながら、2006年以降、発生率は小康状態となり、さらに発生症例の死亡率については2002年から2008年まで20%前後で不変のままの状態が続いています。また、2008年現在、日本麻酔科学会指導病院の約40%は、病院全体の予防対策ガイドラインが未作成の状態にあります。

このため肺塞栓予防支援チームでは、予防対策の一層の推進のため、微力ながらその一助となることを願って、病院と医療者に予防対策の重要性を啓発するセミナーの開催を支援する活動を計画いたしました。とくに大学付属病院や臨床研修指定病院、地域中核病院など、医療者の育成や質の向上に指導的役割を担っておられる地域拠点病院で肺血栓塞栓症予防対策の啓発セミナーが開催されることは、域内の病院や関連病院への対策の普及促進にもつながり意義が大きいと考えています。

支援チームは、ご要望に応じて、企画への協力、講師の紹介・派遣、医療安全管理の研修にご活用いただける教材資料の提供などの協力をさせていただきます。ご希望の施設・団体は下記までご連絡いただきますようご案内申し上げます。

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”
目標2「周術期肺塞栓症の予防」支援チーム

記

■ 肺血栓塞栓症予防セミナー開催に関する協力事項

1. セミナーの企画に関するサポート：内容や実施計画に関するご相談と講師の紹介
2. 肺塞栓予防を担当される方（医療安全管理者など）に肺血栓塞栓症予防に関する最新情報をメールで配信いたします。
3. ご担当の方に肺血栓塞栓症予防に関するFAQ（よくある質問と回答）や教育用教材（スライド・ビデオなど）をご提供いたします。
4. その他、可能な範囲で種々ご相談に応じます。

■ 申込み／連絡先：shienjimu@kyodokodo.jp

- 電話でのお問合せは下記までお願いいたします。

TEL: 0285-58-7383

目標2 支援チーム代表 瀬尾憲正（自治医科大学麻酔科学・集中治療医学講座）

医療安全全国共同行動目標2「周術期肺塞栓症の予防」

支援チーム委員・アドバイザー

瀬尾 憲正	自治医科大学麻酔科学・集中治療医学講座教授
中村 真潮	三重大学大学院循環器内科学講師
佐久間 聖仁	国立循環器病センター心臓血管内科医長
木下 佳子	NTT 東日本関東病院副看護部長
山田 典一	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻病態制御医学講座 循環器内科学講師
保田 知生	近畿大学医学部安全管理部講師
小林 隆夫	県西部浜松医療センター院長
左近 賢人	西宮市立中央病院外科院長
富士 武史	大阪厚生年金病院診療局長・整形外科主任部長
中野 赳	医療法人山本総合病院顧問